

0276

<p>保存期限  決裁指定  執行指定 </p>			
<p>大臣房 了結 大正 年 月 日</p> <p>受領 大正 年 月 日</p> <p>提出 大正十五年 七月 十二日</p> <p>受領 大正 年 月 日</p>	<p>主務局長 </p> <p>次官 </p> <p>政務次官 </p> <p>主務課長 </p> <p>高級副官 </p> <p>主務副官 </p> <p>主務課員 </p>	<p>大臣 </p> <p>事務局長 </p> <p>高級副官 </p> <p>主務課長 </p> <p>主務副官 </p> <p>主務課員 </p>	<p>件名</p> <p style="font-size: 2em;">要塞備附火砲据附替ニ關スル件</p> <p>起元廳(課)名</p> <p>陸軍局銃砲課</p> <p>決行(決裁)後 回覧課名</p> <p style="font-size: 1.5em;">陸軍局銃砲課</p> <p style="text-align: right;">審案 筆記者 </p>
<p>連帶局長 </p> <p>局長 </p>		<p>起元廳(課)名</p> <p>陸軍局銃砲課</p>	

陸軍局銃砲課 二九八號

陸軍局銃砲課  
 審案  
 15.11.17

次官可參謀次長一照會

基隆要塞白米甕堡壘安式八寸加農第  
五回五號砲(第一砲車)ハ砲體ノ衰損著  
シキ為廢品處分ヲナシ豫テ隨時廢止ニ決  
定シアルハ尺則堡壘備附ノ同種砲一門ヲ撤  
去シ之ト交換シ度ニ付意見承知シ度

三三〇

台異存無キ旨回答アリタル後左案決行セラシ度

陸軍兵器本廠ノ達

基隆要塞白米甕堡壘安式八寸加農第

五四〇五銃砲(第一砲車)ハ砲腔ノ衰損甚シキ  
 為ニ廢却處分ヲナシ豫テ隨時廢止ニ決定シ  
 アル八尺門堡壘備附ノ安式八寸加農一門ヲ  
 撤去シ之ト交換据付方取計フニ  
 但シ費用ハ軍事情報兵器及馬匹費支弁トス

陸 軍 別 官 官 其 陸 軍 塞 司 令 官 築 城 部

本 部 長 へ 通 條

甘 肅 陸 軍 塞 司 令 官 塞 司 令 官 築 城 部  
 五 四 〇 五 砲 砲 ( 第 一 砲 車 ) ハ 砲 腔 ノ 衰 損 甚 シ キ  
 為 ニ 廢 却 處 分 ヲ ナ シ 豫 テ 隨 時 廢 止 ニ 決 定 シ

陸 軍 部

アル八天門堡壘備附ノ安式八寸加蓋一門ヲ撤  
去シ之ト交換据付才陸軍兵器本廠(達)セラ  
シタルニ付承知セラシ度

理由

陸密第三三九

十月二日

大正十五年度臺灣ノ諸部隊臨時兵器検査ノ際  
本火砲ヲ調査シタル結果砲體表損ノ程度甚  
シキ為砲身ノ交換ヲ必要ト認メタルニ依ル

基隆行(ハ)一内ヲ貴ニ作ル

陸軍  
五三六

備砲

備砲竣工ノ件報告

昭和貳年四月廿

陸軍兵器本廠長

陸軍大臣宇垣一成殿

客年十二月二日陸密第三三九號ヲ以テ達セシメ陸要案  
白米瘡瓦保豐備付火砲ノ据付替工事終了セシ付別冊  
備砲竣工書相添ヘ報告ス

陸軍省  
2.4.16  
4.8  
陸砲課

2.4.16  
73  
陸砲課

報

昭和二年四月

砲臺備砲竣工書

基隆要塞司令部砲兵部員

砲臺備砲竣工書

一、令違年月日

大正十五年十二月二日陸密第三九號

二、作業種類

八尺門砲臺備付安式八寸加農第五号砲(門砲身砲架)ヲ白米

寬堡壘第一砲車トシテ据付替置實施

三、着令年月日

昭和二年一月十日

四、竣工年月日

昭和二年三月十日

五、豫算金高

千九百圓

六、竣工實費高

千八百九拾九圓八拾四錢

七、工事施行中ニ於ケル主要事項

一、工事主任官 陸軍砲兵少尉坂本善夫

二、氣象ノ交感

工事施行間恰天當地ノ雨期ニ相當シ約六十日間ヲ通シテ降雨

日數實ニ五十四日ニ達ス而シテ降雨力作業ニ及ホス影響ハ

蓋シ火ナルモノアリ即チ危険性ノ増大ト經費ノ膨大ト作業ノ延トニ於テ著シキ差異ヲ生スセリ

### 3. 火砲ノ撤去運搬据付ノ大要

八尺明堡臺ニ於ケル火砲ノ撤去ハ十五噸起重機ヲ使用シ砲身砲架ヲ逐次撤去ス運搬ハ陸路神樂棧ニ依リ台湾苦勞ヲ使役シ砲臺一軍路一八尺明繫船場一海上輸送一牛稠港海岸一軍路ヲ經テ白米窺堡壘ニ至ル而シテ八尺明砲臺ヨリ八尺明繫船場ニ至ル急坂路ニ於テハ降雨ノ爲非常ノ危険ヲ生シタルモ辛シク是レヲ脱出セリ

八尺明繫船場ヨリ海上輸送ハ海上波高キ爲輸送注意ノ如クナラス豫定外ノ時日ト經費ヲ要セリ積込ハ三十五噸積込ノ團平船一隻ヲ備役シ是レニ枕木ヲ装シ繫船場ヨリ假橋ヲ架シテ砲身砲架共塔積ス同所ハ本島ト社寮島トノ



水道ニ相當スルヲ以テ團平船ノ安定ニ非常ノ困難ヲ感セリ  
陸揚ハ内港ノ關係上比較的容易ニ完了セリ

牛稠港ヨリ白米甕堡壘ニ至ル間ノ運搬ハ終始阪路ナルト  
連日ノ豪雨トヨリ泥濘導板ヲ没シ火炮ノ横滑リ轉子ノ  
空轉ヲナシ殊ニ神樂機用繩索ハ泥濘ノ爲空滑リヲナシ  
火炮ハ一進一退ノ狀況ニテ作業意ノ如リ進捗セズ多大ノ  
人役ト日時ヲ要シ頗ル危険ヲ伴ヘリ

白米甕堡壘ニ於ケル廢砲ノ撤去及新火炮ノ据付ハ十五噸起  
重機ヲ使用シ砲身砲架ヲ各別ニ實施ス而シテ廢砲ハ堡壘  
附近彈藥調製場前ニ適宜ノ横材ト枕坐ニ依リ格納ス  
据付後ニ於ケル各部ノ機能良好ナリ

#### 4. 材料供給ノ方法

大部分ハ計畫ニ基キ當市商人ヲ集メ規格ヲ示シテ

競争入札ヲナサシメノ圍平船用枕木、積込用横材等ハ當地  
築港部ノモノヲ借用シ砂等ハ經費節約上一部ヲ直接  
採取使用ス 材料ノ購買ハ當部主計ヲシテ當ラシム  
5. 勞力供給ノ方法

主計ヲシテ要塞司令部ニ於テ契約セル勞力供給人ヨリ  
供給セルノ工事掛官ヨリ日々使役証明ヲ與ヘテ請求セシム  
6. 將來參考トナルヘキ事項

4. 當地ノ如キ氣象ノ地ニ在リテハ十二月上旬ヨリ四月中旬迄ノ降雨  
最モ盛ナル時季ハ危險性ノ増大ト經費ノ膨大ノ關係上  
成シ得ルハ避クルヲ可トセン

4. 連日降雨ノ際ニ於ケル神樂棧用麻索ハ本麻製ノモノヨリ  
「マニラ」製ノモノヲ可ナラスヤト認ム勿論抗力上ヨリ是レヲ  
論スルハ本麻製ノモノヲ以テ上位トセンモ連日降雨ノ場合ニ於テハ

滑リ多クシテ改路ニ於ケル運搬ニハ適當ナラス

ハ、降雨期ヨリ作業ニハ轉子、導板、神樂杖、繩軸、麻索等ニ

砂ヲ散布シテ作業セハ比較的危険性ヲ減少ス

ニ、現用神樂杖ハ頗ル旧式ノモノニテ人役ヲ浪費シ且運搬路

狭キ處ニ在リテハ、難木、腕木ノ為使用頗ル困難ナリ現時代

ニ適應スルカ如キモノニ改正セラレタシ

									作業別 月日	
									作業	月日
9	8	7	6	5	4	3	2	1	作業	月日
									準備作業 於此	作業開始前 於此
									火砲器具材 撤去作業	入尺門迄 於此
									運搬	火砲器具 材
									撤去及 備付	白米墾田 廢地
									器具運搬等 復旧作業	撤付終了後 於此
										摘 要

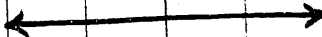
白米墾田要  
一月(施作地)  
安式八寸加農  
備砲作業豫定實施表

一月十日 着  
三月十日 落成  
三十五日 間  
五十一日 間





	月		三									
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36



515049

備考

一、豫定ハ黒線實施ハ朱線ヲ以テ示ス

二、豫定以上ノ日數ヲ要シタルハ左ノ理由ニ依ル

小連日降雨ノ為

ハ海上波高ヲ輸送困難ナルト、是レカ爲白米甕海岸ニ揚陸ノ

豫定ナリシヲ牛稠港ニ変更シタル爲





安式入吋和兼  
白米糶屋量 一明(砲身砲架) 備砲作業經費明細表

品目	数量	單價	小計	備考	
職工(常備)	14	220	31080	1. 準備定米糶實施ヲ示ス 作業開始前於此 準備作業	
同(臨時)	10	220	22000		
鍛工	6	300	18000		
木工	2	200	4000		
男入夫	130	1000	130000		
男入夫	106.3	900	95670		
職工(常備)	8	220	17600		撤去作業
同(臨時)	4	300	12000		
男入夫	40	1000	40000		
男入夫	20	900	18000		
職工(常備)	40	220	88000	運搬作業	
同(臨時)	35	220	77000		
鍛工	20	300	60000		
鍛工	28.8	300	86400		
鍛工	26	300	78000		
男入夫	300	1000	300000	掘付作業	
男入夫	625	900	562500		
船(圓平船)	3	15000	45000		
船(圓平船)	6	20000	120000		
職工(常備)	8	220	17600		
同(臨時)	4.4	220	9760		
同(臨時)	5	300	15000		
同(臨時)	6	2750	16500		
鍛工	2	3000	6000		
男入夫	50	1000	50000		
男入夫	85.1	900	76590		
木枕	2	2000	4000	掘付後於此 復旧	
職工(常備)	50	220	110000		
職工(臨時)	9.1	220	20020		
職工(臨時)	10	3000	30000		
女入夫	15	2000	30000		
男入夫	60	1000	60000		
男入夫	152	900	136800		
女入夫	50	400	20000		
計			1082400		
計			1397740		
松材	5	800	4000	掘付後、關於上開事項	
松材	5	900	4500		
同	1	9000	9000		
同	4	8100	32400		
同	3	23000	69000		
同	2	22500	45000		
松板	5	1000	5000		
松板	5	1500	7500		
松材	20	6300	126000		
木板	20	3000	60000		
木板	15	2700	40500		
同	6	6000	36000		
同	6	5400	32400		
木枕	40	1000	40000		
木枕	40	850	34000		

0292

品目	数量	単價	小計	備考
松材 厚九寸 長さ四間	3	23900	101700	揚陸地、関係上購買ス
	1	100000	100000	
砂 利 全五分	0.5	62500	31250	八尺門壁壁用
	1	60000	60000	
砂	0.5	43500	21750	白米壁壁用
	1	7000	35000	
決野セメント	5	7000	35000	八尺門壁壁用
	2	6400	12800	
同上	10	7000	70000	白米壁壁用
	5	7000	35000	
鉄 長釘	140	250	35000	
	140	035	4900	
洋釘 2吋	1000	100	10000	
	1000	080	8000	
同 2吋	1500	100	15000	
	1500	080	12000	
木炭	18	230	4140	
	10	40	2400	
ポンキ	6	200	1200	
	10	240	2400	
入	50	170	8500	
	5	300	1500	
クレオソード	10	270	2700	
	1500	230	3450	
木綿切	2			
晒木線	50	050	2500	
雑 中	200	030	6000	
岩明母	10	480	4800	
煮亚麻仁油	10	130	1300	司令部にて 使用ス
常用砥油	15	035	525	
精納用砥油	8	340	2720	
茶褐色塗料	10	550	5500	
磨研布	30	075	2250	
切出刷毛大	5	1000	5000	
同 中	4	800	3200	
パンキ刷毛	9	500	4500	
牛 袋	15	200	3000	
石 錠	4	200	800	
クレピン油	11	065	715	
白パンキ	10	300	3000	
計			707600	
			421700	
槌 子	5	1800	9000	据付器具復旧費にて 11月豫定に於て左記 にて復旧す
木 槌	2	3800	7600	
入 鋸	4	150	2600	
麻 袋 索 一吋 長さ200尺	4	15300	61200	
計			110000	
			80400	
合計			1900000	
			1839840	

0293

陸軍部 第五三六號 第一

參謀本部 參密第一二八九號 第三

陸軍部 15 12 11 午後 8 時 復往

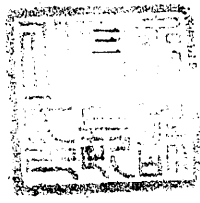
陸軍部 15 12 午後 8 時 復往

要塞備附火砲据附替ニ關スル件回答

大正十五年十一月三十日 參謀次長 金谷 範

陸軍次官 畑 英太郎 殿

首題ノ件ニ關シ十一月十三日附陸密第三三〇號ヲ以テ照會ノ趣異存  
無シ



陸軍